

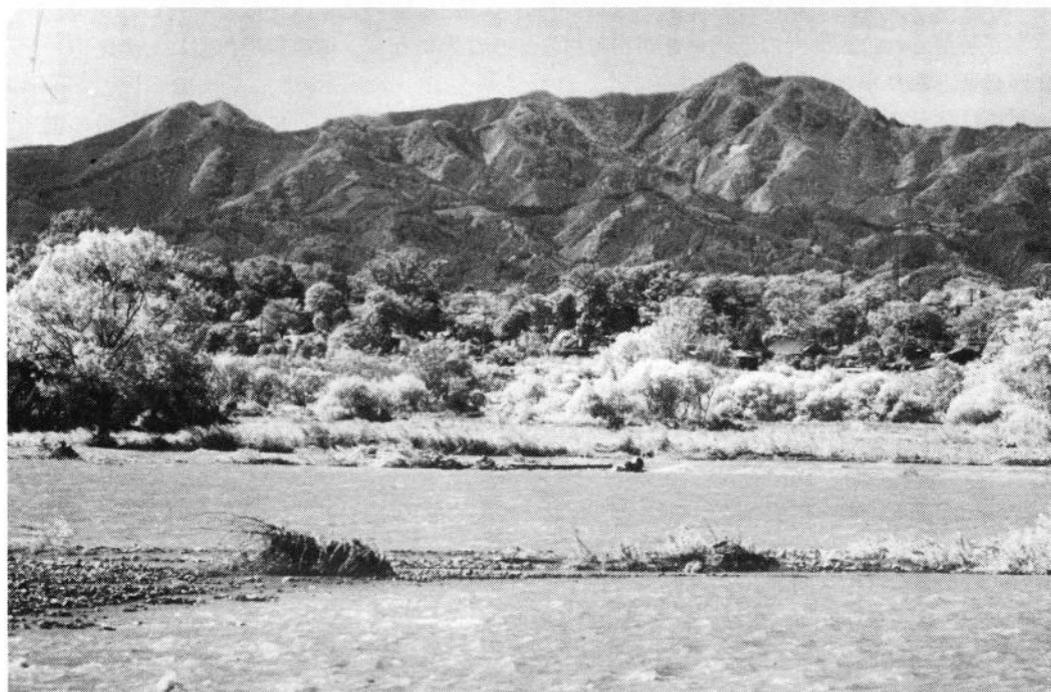
西多摩医師会報

創立
80
周年

創刊 昭和47年7月

第245号 平成5年5月

同好医会発足100周年



『大岳山』 安富一夫

目 次

	頁		頁
1. 救急・休日委答申す		『放送大学の奨め』 近藤 肇	16
諮問について 松原貞一	2	当院ナースのストレス解消法	
答申書 救急・休日診療委員会	2	青梅総合「いずみ会だより」より	20
2. 理事会報告 広報部	5	7. 地区だより	
3. 会員通知・医師会の動き 事務局	8	羽村地区 広報部	21
4. 各部だより		福生地区 安富一夫	21
健康講演会について 学術部	10	8. お知らせ・訃報	22
5. 青梅総合病院外来診察分担表	11	9. 表紙のことば 安富一夫	23
6. 文芸随筆その他諸事百般		10. あとがき 玉木一弘	23
雑記『五十周年記念式典』			
山田正哉	12		

救急・休日委答申す

会長 松原貞一

諮問について

東京都が市町村単位で始めた休日準夜診療事業は、医療機関数が少ない町村など単独行政での実施が不可能という事情もあって、当西多摩地区では、福生・青梅・秋川の3ブロックに分けブロック単位で担当医療機関を編成して発足、事業が都より区市町村に移管されても、実施体制はブロック単位で続けられて来ました。一昨年当医師会の定款改正にともない、ブロック体制が解消され、医師会の下部単位が市町村ということになり、準夜診療体制にも考え方の変更が必要となりました。

更には休日夜間診療事業も、休日に加えて土曜日の夜間も行うことになり、実施日数の増加が結果として参加医療機関の負担増となって来ています。このような情勢の変化の為、当地区の休日準夜・夜間診療体制の見直しが求められ、検討を救急休日診療委員会にお願いしました所、下記のような答申を頂きました。中村 武委員長を始め委員の先生方のご努力に感謝すると共に、答申の意を尊重し、より良い夜間診療体制作りの為努力を致します。

答 申 書

平成5年4月6日

社団法人 西多摩医師会

会長 松原貞一 殿

救急・休日診療委員会

委員長 中村 武

委員 宇田 東平 委員 鈴木 孝寿

〃 大久保 憲二 〃 高木 直

〃 片平 潤一 〃 玉木 一弘

〃 小机 敏昭 〃 萩森 正紀

〃 清水 章三郎 〃 山田 淳二

貴職から平成5年2月16日付西医発No.170で当委員会に下された諮問につき答申する。

諮 問 事 項

1. ブロック単位より地区体制へ変更後の休日準夜体制について
2. 休日夜間体制の充実について

緒 言

かねてから西多摩医師会（以下本会と記す）は西多摩全域にわたる包括的地域医療をモットーに活動してきた。しかしながら時として行政の厚い壁に阻まれその目的を達し得なかったことも数少なくはない。自治体の本質はその住民のみに対する業務であり、従って本会が包括的

地域医療を実施せんとするとき自治体との間に隘路があっても当然なことである。そこに9自治体に対して1医師会という本会の立場の困難性が存在する。

平成3年9月26日改正認可された定款に基づく施行規則においては、上記の事実を考慮し自治体ごとの地区会を設置した。この地区会の設置の意図には、本会の業務の内の可能なものは速やかに地区会に委譲し、必要あれば地区会と所属自治体との交渉に委ね、その結果を本会の包括事業とすることにより本会の困難性を解消せんとする意向もふくまれている。

準夜診療事業は昭和53年10月1日東京都の事業として発足し、本会もこれを医師会事業として推進してきた。この事業は昭和57年4月1日に都から市町村に移管されたが、その後も西多摩地区では当時の西多摩方式で現在におよんでいる。

市町村に移管されたにも拘わらず実施形態の変化が無いため、主体であるべき自治体側がこの事業に関してどの程度の認識と自覚があるか疑問である。

自治体の住民に対するポーズにより『医の倫理』を逆にとり、医師が利用されることは好ましくない。準夜体制についての自治体のアンケート結果は下記の如くである。自治体によっては平日準夜に重点をおいていて休日準夜診療については単独実施は困難としているところもあるが、これも本会の立場の困難性の一端を窺かがわせるものである。

管内自治体休日準夜体制アンケート結果について

設問 市町村名	1. できれば単独で全休日の準夜診療を実施したい	2. 全休日は無理なので休日の一部のみ単独事業として実施したい	3. 単独実施は無理なので近隣市町村と組んで全休日を実施したい	意見
羽村			○	市としては市民サービスの向上の面から将来的には単独で全休日を実施したいと考えているが、当面3の方法で進めたい
秋川	○			
福生	○			
瑞穂			○	
奥多摩	○			全休日の休日準夜診療を実施
日の出町			○	平成5年4月より五日市医会と日の出町医会が休日診療、準夜診療を輪番で実施します。但し、準夜診療については祝日だけ実施
五日市町			○	平成5年度より五日市町、日の出町医会の協議により休日(全)、準夜体制は祝日のみ実施
桧原			○	*本村は他市町村との体制は必要と思うが、本村の当番となったとき他市町村に問題が生じると考えられる *将来的には休日診療(平常業務)は無理としても、緊急のみ診療は実施して行きたい

休日夜間診療は、現在本会事業として実施しているものであるが、土曜日も平成元年10月より本事業に組み込まれた。

本事業についても年々初療への参加医師の減少傾向がみられる。これは床有診療所の著しい減少、パラメデカルの問題、さらには院外処方診療所の増加等の諸因子によるものと考えられ、この傾向は漸次拡大されてゆくものと推測される。

今日まで救急・休日診療委員会或るいは地域医療委員会の諮問答申がたびたび提出されている。それは夜間初療センター或るいは初療救急診療センター設置の提唱である。これらは将来に向けてのビジョンとしては全く理想的ではあるが、9自治体の存在や本会の実態に思いをいたすとき実現にはほど遠いものと考えざるを得ない。

答 申

【準夜診療事業】

本事業は既に都から市町村に移管されており、準夜診療事業はこの際「本会事業」に非ずして「市町村事業」であることを明確化すべきである。

実施にあたっては自治体の自覚と認識が基礎になることは当然のことであり、実施方式（センター方式あるいは輪番方式）や医師を含めたパラメディカル要員の確保、或るいは実施回数等の設定が必要となる。

実施形態については

- (1) 上記の必要事項を全て自治体側において企画設定し、地区会の医師団はその地区会に適した方式で可能な限り協力する。自治体の希望するところと地区会の協力限界が満たされない場合には、自治体側において努力し善処する。
- (2) 市町村事業でありながらも地区会が自治体より全面委託を受けて地区会事業として実施する。この場合は当然(1)の必要性事項を地区会が企画実践することになる。が考えられるが、いづれを選択するかは地区会の自主に委ねるべきものである。

【休日夜間体制の充実について】

当委員会としては本件現行体制に手を加える必要はないと考える。実現性に乏しいビジョンを提案することは、今回の諮問の主旨にそわないものと思うのでさしひかえる。西医会としては協力医師の確保に意を尽くすべきであろう。

往々にして初療担当診療所に受診すべき患者が入院担当病院に出向いたとき、前者に差し戻すことがあるが、このようなことのないよう本会として医療機関及び住民の指導をすべきである。

病院によっては初療部門を併設し、或るいは病院運営形態の変更を企画しているとのことであり、これらが現実化した時点においては夜間診療事業並びに準夜診療運営の再検討が必要となろうことを申し添えて答申とする。

(広報部注：自治体アンケートは青梅市については、独自の委託方式の為、今回は聴取しておりません。)

理事会報告

★ Information

4月定例理事会

平成5年4月8日

西多摩医師会館

【1】 報告事項

- (I) 救急・休日診療委員会「答申」について —巻頭に別掲記事— (松原会長)
- (II) 東京都医師会定時代議員会並びに定時総会報告 (3月25日) (大塚代議員)
- 1) 平成4年度会員総数 1,337名 (247名増加)
 - 2) 都医表彰
 - 3) 都医事務所拡張について (前号既報)
 - 4) 77才以上の会費減免について
- (III) 各地区会よりの報告 (各地区理事)
- (青梅) 総会開催し4年度決算、5年度予算を決した。
- (福生) 4月3日、定時総会開催し4年度決算、5年度予算を決め、西医運営状況報告、休日準夜診療(センター方式の実施)打ち合せを行った。
- (羽村) 真鍋 勉新地区長を選出した。
- (IV) その他
- 保健所の課名変更について
 予防課が保健サービス課に、衛生課が生活衛生課に変更された。

【2】 報告承認事項

- (I) 入会会員について —承認— (真鍋理事)
- (II) 東京労働保険医療協会評議員推薦について (別掲資料1) (")
- (III) 保健所各種会議等委員推薦について (別掲資料2) (")
- (IV) 東京小児療育病院のパンフレット配布について
 心身障害児(者)地域療育拠点事業の紹介の為、パンフレット配布依頼あり。

【3】 協議事項

- (I) 平成5年度定時総会に伴う4～5月の日程について (真鍋理事)
- (II) 西多摩医師会創立80周年記念事業について (")
 記念誌発行の有無について、実行委員会で、決定する。

4月定例理事会

平成5年4月20日

西多摩医師会館

【1】 報告事項

(I) 各地区会よりの報告

(各地区理事)

(福生) 三師会員を招いて花見の宴を行った。(4月9日)

(羽村) 総会にて、月1回の定期連絡会を行うことになった。(4月16日)

(秋川) 総会を行った。(4月19日)

(II) その他

(1) 都医役員候補者の紹介

【2】 報告承認事項

(I) 入会会員について

—— 承認 —— (真鍋理事)

(II) 保健所委員推薦について

(“)

秋川保健相談所 保健・福祉サービス調整推進会議委員推薦について

樋口昭夫会員を推薦する。

【3】 協議事項

(I) 西多摩医師会創立80周年記念事業について

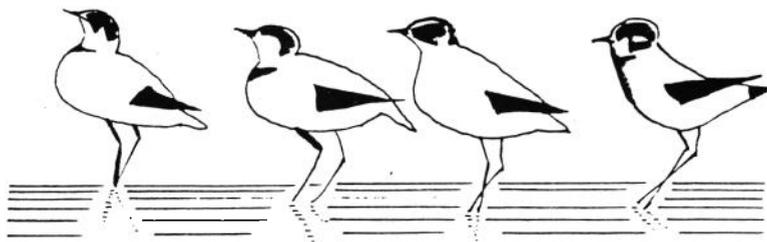
(足立副会長)

・記念誌発行の有無について、実行委員会にて再検討を行う。

(II) その他

・一般向け「健康講演会」を5月11日(火)7時より、羽村公民館にて
佐野精司 日大整形外科教授を講師に行う。

・4月22日、西多摩癌検診事業への貢献に対して、都衛生局より西多摩医師会が表彰を受けることになった。



【別掲資料1】

東京労働保険医療協会
評議員の選出について

新	旧
宮川 栄次	高木 直

任期 自 平成5年4月1日
至 平成6年3月31日

【別掲資料2】

平成5年度青梅保健所各種協議会及び
連絡委員推薦について

(1)「保健所運営協議会」

任期 平成5年10月1日～平成7年9月30日

氏名	備考
足立 卓三	
吉野 住雄	

(2)「保健所保健事業連絡協議会」

任期 平成5年4月1日～平成7年3月31日

氏名	備考
足立 卓三	
唐橋 善雄	
川辺 隆道	

(3)「結核診査協議会」

任期 平成5年12月16日～平成7年12月15日

氏名	備考
片平 潤一	
野本 正嗣	

(4)「保健所保健福祉サービス調整推進会議」

任期 平成5年4月1日～平成6年3月31日

氏名	備考
大堀 洋一	

(5)「在宅難病患者訪問指導事業連絡会」

任期 平成5年4月1日～平成6年3月31日

氏名	備考
市原 靖	
石田 信彦	前任者 江本虎雄
大堀 洋一	前任者 荒巻武彦
野本 正嗣	

(6)「地区母子保健対策協議会」

任期 平成5年4月1日～平成6年3月31日

氏名	備考
高野 和章	
川辺 隆道	
林 良樹	

(7)「健康づくりフォローアップ事業」

任期 平成5年4月1日～平成6年3月31日

氏名	備考
川辺 隆道	
石田 信彦	
吉野 住雄	
野本 正嗣	

青梅市立総合病院 外来診察分担表

平成5年4月現在

診療科	月	火	水	木	金	土	専門外来	
⑦内科	柏木	柏木	桜井	栗山	桜井	交代	リウマチ・膠原病 呼吸器科 消化器科 泌尿器科 内分泌科 神経科 皮膚科 小児科 産婦人科	
	原	原	柏木	松岡	原			
	栗山	久内	松岡	熊谷	高野			
	高野		小池		小池			
	新患	細井	高清水		細井			
⑦消化器科	坂本	金沢・土信田	土信田	坂本・金沢・土信田	新患			
⑧外科	石井	山田	宇田	宇田	山田	石井(交代) 森田	乳がん 専門	
	佐野	佐藤	藤田	森田	佐野			
⑧胸部外科			宇田	宇田・森田				
⑩神経外科	森	宮崎	埼玉医科大学 埼玉医科大学 埼玉医科大学	鬼頭	宮崎	休診		
○整形外科	吉原	堀田	吉原	堀田	井上	交代	神経痛 整形 手技	
	山口	三宅	井上	三宅	山口			
○産婦人科	妊婦 婦人科	高野	内田・依田	永井・田辺	富永	林	交代	不妊 子宮内服症
		内田	富永	内田	高野	高野		
		富永	永井	林	林	依田		
		林	田辺	依田	依田	永井		
		田辺	柳沢		田辺			
招へい医								
○皮膚科	竹ノ谷	竹ノ谷	竹ノ谷	竹ノ谷	田嶋	休診		
○泌尿器科	友石	久慈	廣瀬	友石	中村・齋出	休診		
○小児科	林	崔	林	崔	林	休診	神経心臓内乳腎 カウンセリング 分 未熟児 経脈一息 泌尿器 胎児	
	崔	北浦	繁友	北浦	繁友			
	繁友	浅野	浅野	浅野	北浦			
○眼科	瀧口・国年	瀧口・国年	招へい医	瀧口・国年	国年	休診	未熟児網膜症 斜視弱視	
○耳鼻咽喉科	宮城	宮城・関	石田・関	宮城	関・中村	休診		
○神経科	新患 再来	瀧川	荻田	山本	三浦	中野	交代	
		中野 (予約制)	山本・中野 (予約制)	瀧川 (予約制)	山本 (予約制)	藤村 瀧川(予約制)		
○放射線科	招へい医(治療)		招へい医(CT)			招へい医(RI)		
○理学診療科		藤本	藤本	藤本			義肢装具	
○口腔外科		交代		高久	交代	吉田		

文芸随筆その他諸事百般

雑記

五十周年記念式典

山田正哉

本平成五年は同好医会創立百周年、西多摩医師会創立八十周年記念式典を秋に当西多摩医師会では挙行することに決定している。

最近は十年毎に祝典が催されているが、西多摩医師会創立から最初の十年目（大正11年十周年）は、会員数は少なくとも毎年1月14日に同好医会を催し会員相互の親睦、融和が密なる為に式典の必要もなかった。次の十年目（昭和7年二十周年）は第一次上海事変が勃発し日中間に戦争の兆しが著名となり、国内では血盟団による暗殺や海軍将校の首相官邸襲撃（5・15事件）による犬養首相射殺があり、一方7月には第10回ロスアンゼルスオリンピックで南部忠平選手の三段跳び世界新記録樹立の吉報があり式典は実施されていないが、同好医会発足四十周年記念として同好医会沿革誌が小冊子として印刷されている。次の十年（昭和17年三十周年）は前年12月8日のハワイ軍港攻撃による第二次世界大戦勃発で日本全国戦時下体制に置かれ、また、会員の応召も見られて式典は実施されていない。次の十年目（昭和27年四十周年）は民主的医師会発足後でもあり、医師会事務所火災焼失による青梅市勝沼羽村源一氏方移転、手狭で役員会等は開催出来ても戦後増加した多数会員の集合は不可能である上に、物資も豊富でなく場所さえ確保出来ぬ状態で式典開催は見送られているが、しばらく中断された同好医会が山田正禮及び当時の医会理事の発起によって再開されている。

西多摩医師会館建設（会報204号掲載）後会員の集合場所も確保されると共に、五十年と云う節目もあって石森賢一会長の時に、西多摩医師会創立五十周年記念式典が計画された。この式典に関する詳細な記録は、六十年

史にも記載されていない。

偶々見つけた亡き父の医師会覚え書き手帳の中に五十周年記念事業の進行計画、役割分担等の記載があり、同時に当時会計担当の後藤伸先生の会計覚え書きも見つかったので、この尊い記録を後日の為に残すべく記載して置くことにした。

昭和37年9月15日午後5時より西多摩医師会五十周年記念第一回準備会が開催されて、山田正禮、田中実、川内英雄、高水武夫、香西盛長、池田晴彦、笹本義太郎、川辺晃、栗原正吾、菱山正治、石森賢一（会長）、坂本保、小泉新策（副会長）が集まって協議の結果、委員長山田正禮、副委員長香西盛長を、会長、副会長はオブザーバーとして今後出席することとし、他に開業医表彰、老令功労者、従業員表彰、招待者範囲等を協議し事業費として約25万円程度を予想し、式典開催日を11月24日午後2時からと協議している。また、会員全員に記念品贈呈の件、式典開催に伴う臨時会費（診療所二千元、病院五千元）を徴収するよう提案している。

9月26日午後6時より第二回準備委員会を開催し、会員記念には皮帯バックル、招待者3名追加、老令功労者6名に三重ね木盃、従業員は30年以上1名、15年以上5名、10年以上62名、5年以上141名、計209名を表彰対象とすることに内定している。開業医表彰は開業20年以上とし、菊池卯太郎、森田司（日ノ出町平井）、栗原憲弑（五日市町軍道）、野口幸子、横田実、栗原正吾（五日市町）、川内英雄、川辺晃（奥多摩町氷川）、進藤利定、石森賢一（青梅市）、山田正禮、横田寿照（福生市）、荻野義一、高水武夫（瑞穂町）、加藤シゲ（羽村町）以上15名にアルバムを、

役員表彰（10年以上）山田正禮、横田寿照、川辺英雄、石森賢一、高水武夫、小泉新策、坂本保、栗原正吾、大河原周、香西盛長、池田晴彦、田中実、稲垣本治、進藤利定の14名を決定、老令功労者鈴木隆之助（青梅市志木）、三井弘次（奥多摩町古里）、野村喜祐（奥多摩町留浦）、深沢誠一（五日市町）、宗像教親（福生病院初代院長 現国立市）、羽村源一（事務員）に三重ね木盃一組を贈ることにした。（住所は筆者付記す）

従業員は30年以上1名、15年以上5名、10年以上62名、5年以上141名、計209名を対象とし記念品を贈るが、5年未満は切り捨てにすることにした。

招待者及び全会員には染抜き手拭を、会員記念品を銀製の帯皮ベルト用バックルとして贈ることにし、之に関しては栗原正吾氏に依頼する。

本式典を施行する予算案として

収入は

臨時会費	2,000円×90＝	180,000円
本会補助		110,000円
お祝（寄附金）		30,000円

支出は

バックル	500円×	150＝	75,000円
来賓	280円×	40＝	11,200円
功労者	1,000円×	6＝	6,000円
手拭	500円×	1000＝	50,000円
開業医	1,000円×	15＝	15,000円
役員	2,000円×	14＝	28,000円
宴会費	500円×	12＝	60,000円
表彰状他			30,000円

開催日 昭和37年11月24日午後2時より

10月10日第三回準備委員会を開催する。

- ① 式典費用の為め臨時会費1人当二千円徴収することを承認決定。
- ② 準備会は一段落したと見做し解散し、次回からは実行委員会として活動することとし、委員長山田正禮を選出する。
- ③ 会員記念品たるバックルは1ヶ千数百円を要し、予算案1ヶ500円では到底製作不

可能なることが判明した。小泉氏の提案により、総予算の約2分程度を他の経費から節約してその分を廻し今少し立派な物を造ることにした。

来る20日の第一回実行委員会を開催する迄に川辺晃、菱山正治、笹本義太郎の諸氏が東京にて調査すること。

第一回実行委員会を10月20日に開催す。

- ① バックルの件、880円にて最高品が出来ることが判明。
- ② 役員記念品の予算二千円を千五百円に変更し、夏の鮎漁（西多摩医師会と東京都医師会等懇親の会）の余金を加え更に不足分は他の雑費より捻出して立派なバックルを造ることとす。
- ③ 従業員の記念品は川辺晃氏に一任。
- ④ 会場は会館或は永山公園の説が出たが、医師会館とし室内に自由に出入り出来るよう会館の硝子戸は全部はずし、土足で自由に入れる様ムシロを敷くこととして、青梅委員に一任する。
- ⑤ 表彰状は木盃分6枚、役員14名、従業員は209名準備する。
- ⑥ 宴会には

盛花	800円×	25＝	20,000円
ビール24打			26,400円
酌奴			10,000円
		計	56,400円

 を用意する。
- ⑦ 会場設営委員
 - イ. 会場係（責任者 田中浩哉）
受付（胸章作製、自動車係）、案内係 青梅医師会担当
 - ロ. 接待係（責任者 稲垣本治）
一般、招待者控室
 - ハ. 賞品係、記録（責任者 川辺晃）
 - ニ. 表彰状係（責任者 川辺晃）
 - ホ. 進行係（責任者 池田晴彦）
司会者、池田晴彦
連絡員を設ける。
式次第は次の如くとする。
 - 一. 式辞 会長
 - 一. 物故会員に対する黙禱

- 一. 祝 辞 前会長 (会の沿革状況をもる)
- 一. 表彰式
- 一. 来賓祝辞
 - 都医師会長
 - 日本医師会長
 - 三多摩医師会長
- 一. 閉 会
- 一. 披露宴

案内状は11月12日に発送する (発送先省略)

招待者に発送された案内状は次の如し。

謹啓 菊花薫る候貴台益々御清福大慶に存じ上げます。
さて本年は当会創立五十周年を迎えましたので簡素ながら祝の会を催すことになりました。つきましては公私共に御多忙中洵に御迷惑とは存じますが左記により御来駕の栄を賜り度く御案内申し上げます。

記

日 時 十一月二十四日 (土)

午後二時～四時

場 所 青梅市西分三丁目一〇三
西多摩医師会館

昭和三十七年十一月七日

社団法人 西多摩医師会

会長 石森賢一

殿

- 一. 準備の都合上御手数乍ら御出欠を来る十一月十九日迄に御返信賜り度存じます。
- 二. 御来臨の節は本状を御持参下さい。

11月7日理事会と祝典委員との合同会を開催し、臨時会費は保険請求書類提出時に徴収する。式典役割及び式典次第を承認。

11月22日午後3時祝典委員全員集合して最後の打合せをした。出席した地区別委員は、青梅地区：石森賢一、田中浩哉、笹本義太郎、後藤伸、大河原周、香西盛長、田中実、高木直二郎、三井亀雄、太田道一、三枝進、丸茂三千穂、竹内靖信、松本忠次、安藤寿夫
奥多摩町：川辺晃、今川武

福生市：山田正禮、横田寿照、池田晴彦、井沢良夫、三坂晴一、田辺稔、上田登代一、山田正哉

瑞穂町：高水武夫、栗原三省、内野正作、荻野義一

秋多町：菱山正治、森実、瀬戸岡進

五日市町：栗原憲弼、小泉新策、栗原正吾、野口幸子

羽村町：坂本保、松原貞一

理事会にて決定された式典係は以下の如し。

- A. 会場係 田中浩哉、百瀬政雄、青梅医師会 (笹本義太郎、後藤伸、菱山正治)
- B. 接待係・受付 稲垣本治、大河原周、横田寿照、高水武夫、香西盛長、進藤利定
- C. 式場係 山田正禮、石森賢一、坂本保、小泉新策、池田晴彦、栗原憲弼、森実、大橋忠敏、蓮沼孝
- D. 庶務・会計 田中実、川辺英雄、菱山正治、後藤伸、川辺晃、笹本義太郎、栗原正吾

他の式典委員は全般を手伝うことに決定する。

五十周年記念式典当日は秋晴れの上天気に恵まれ、午後二時より医師会館で挙行したが、衆参議員を初め多数の来賓と多数の会員が参加して盛大な式典であった。

六十周年記念式典には、私の所有する小型デンスケを使用して来賓及び表彰者の祝辞並びに答辞を録音し、それ等を基にして全部を起こして六十年史に記載したが、五十周年では録音さえなく、唯東京都医師会長の祝辞が一つ見つかったので全部を記載して置く。

祝 辞

本日ここに西多摩医師会創立五十周年の記念式典を挙げるに当り、一言祝辞を申し述べさせて戴く機会を得ましたことは私の最も欣快に堪えないところであります。西多摩医師会は明治四十五年創立され爾來明治、大正、昭和三代に亘る輝かしい伝統の下に歴代の医師会役員諸氏はもとより、関係者

各位におかれましては幾多の困難に堪え、医道を昂揚し、医学医術の発達普及、公衆衛生の向上を図り、都民の福祉増進を目的として精進してこられ、ここに栄えある五十周年記念式典を挙行されますことは誠にご同慶の至りであります。

西多摩医師会のその長い歴史のうちには、筆舌に尽し難い幾多の問題があったことと思われれます。特に市町村国保の問題につきましては、三十三区に先きがけ幾多の難問題を処理され、今日の地域国保発展の礎となりましたことは私共の等しく敬服しているところであります。

今や我国の医界は医療制度再建の重大な時期にあり、公衆衛生、保険制度の面において亦変革を要する点が多々あると思われれますので、各位におかれては愈々自重自愛せられて医師会の健全なる発達に一層のご努力あらんことを祈念し本日の栄えある式典に際し簡単ながらお祝の言葉といたします。

昭和三十七年十一月二十四日

東京都医師会長

渡辺真言

式典後の宴会では故稲垣本治先生の奥様とお嬢様による長唄及び踊りが披露され、和を以て尊しとする同好医会以来の精神に則って、会員相互が談笑して時の立つのも忘れる位の盛大な記念式典であった。

式典の様子は昭和37年12月1日号の日本医事新報に記載されている筈で、出来たらお持ちの方は寄附して頂き度いと存じます。

祝電は、衆議院議員津雲国利氏、福田策泰氏、中村高一氏、日本医師会長武見太郎氏、東京都知事東龍太郎氏、都会議員田村幾太郎氏から寄せられている。

会計を担当された後藤伸先生の会計覚え書きを見ると

アルバム代	15,290円
記念代	68,300円
手拭代	43,000円
バックル代 150ヶ	132,000円
ネクタイ止め 14ヶ	21,000円
宴会費(食料代)	23,750円
ビール、ジュース代	21,780円
花盛代	4,500円
表彰状筆耕代	6,455円
胸章代	2,288円
印刷代(表彰状、案内状)	7,550円
式場装飾代	11,000円
アルバイト謝礼	5,000円
テント張人夫代	3,000円
寄附金	47,000円

と記載されてるが、現在ならばどの位の費用になるだろうか。



放送大学の奨め

近 藤 肇

1 概 略

“カルチャーセンターみたいに思われるけど”

これはオバさん学生。

“老壮大学に行っているのですってねなんて言われますよ”

これは老学生の言葉。

“NHKの放送大学と違うのですか”

こう思っている人も多いかもしいない。私はそう言われたことがある。

放送大学は、法律に基づいて作られた、レッキとした国立大学で、毎日朝の6時から24時まで、テレビとFM放送による45分授業と、各学習センターで、合計200科目以上の一回2時間15分、五回を1単位とする面接授業がある。規定された最低限の面接授業での単位取得が卒業条件となっている。

学則など、一般大学と同じで、学生証、学割もあり、スポーツ、文芸、趣味、研究などのクラブ活動など、また、内地ばかりか外国旅行の研修も各地の学習センターに多くあり、また春には学園祭が開催されるなど、若ければ社会人の生活と学生生活をエンジョイできる。図書館には勉強に必要な大抵の図書はあり、他の大学の図書館も利用できる。教授陣は国立系が大部分である。専属の教授陣のほか、他の大学の現職の教授・助教授は客員教授・助教授の名で教員として授業を受け持っている。

入学は、大学入試の資格さえあれば無試験である。大学の総定員は37,000名で、10年以内に卒業できれば良い。また、大学や短大を卒業、中退した人には、それまでに取得した単位は認定される。放送大学と単位の「交換認定協定」をしている大学も少なくなく、放送大学で取得した単位は他大学へ行っても認定される。

2 楽に勉強できる、親切大学

私は、大学時代の医学部の成績表を取り寄せ、恥ずかしい思いをして悪い成績証明書をつけて、全科履修生となり入学願書を提出し、卒業に必要な124単位のうち、62単位を認定してもらった。

勉学の施設であるが、面接授業を受けられる学習センターは、群馬、埼玉、千葉、東京第一・第二・第三、神奈川、諏訪で、テレビやラジオが届かない地区があるので、沖縄を含めて14のビデオ学習センターがある。将来は、放送大学の放送衛星を使って全国的に視聴できる計画である。

私は、所属が東京第一学習センター、面接授業には主として世田谷の東京第一と茗荷谷の東京第二に通い、千葉・埼玉・神奈川にも行った。

放送は、主任教授の他に数人のそれぞれの専門分野の他の大学や研究所の教授たちの分担講義、印刷教材も分担執筆で、内容は学問的に権威がある。ただ、一回の放送授業がたった45分で印刷教材全部について説明するだけの時間もないし、印刷教材にしても非常にコンパクトで濃密であるから、理解するためには印刷教材を読むだけでなく、出来るだけ文献、参考書を読まなくてはならない。

また、テレビの授業では、新鮮な国内・海外での映像が作られ、例えば、東ドイツや東欧、ロシアのような変化があればそれに応じて、すぐに映像も新しく作り変えられる。

ビデオ録画で教師の顔を見ながら画面、図表を何回も見て勉強できるテレビ授業は楽しくもある。

学部は、教養学部だけで、専攻として、生活と福祉、発達と教育、社会と経済、産業と技術、人間の探究、自然に理解の6学科がある。

単位認定試験は、かなり厳しい。60点未満



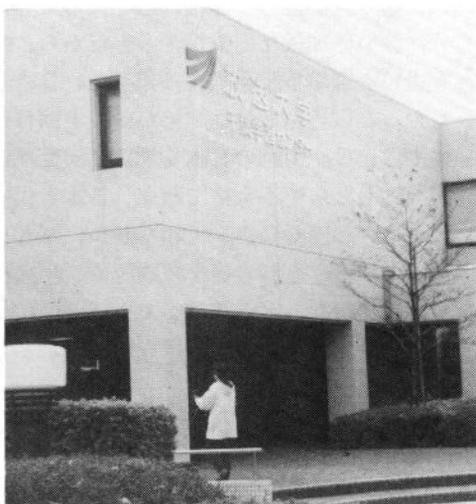
東京第一学習センター
世田谷学芸大学附属高校隣
渋谷駅からバス15~20分



東京第二学習センター
文京区筑波大学内(茗荷谷)
池袋駅から地下鉄5分



大学本部(千葉幕張新都市)
東京から総武線か京葉線約40分
駅より徒歩15分



本部敷地内の千葉学習センター
学生の年齢は比較的若い感じ

は不合格で、次学期にだけ再受験ができる。二学期制で、学期の半ばでレポート提出があるが、その出来が悪ければ、その学期のその科目の受験資格なしとされてしまう。

ある教授がいうには、「こんなに真面目に授業を受ける学生がいる大学はない。大学院は別ですけど。試験も多くの他の大学よりキビシイのではないのですか。また、こんなに親切な大学はない……」と。

3 試験はきびしい

平成4年12月号の大学通信を見ると、合格率は、平成4年一学期の全科履修生の場合、平均45.3%となっている。科目によっては20%にもならないのが少なからずあるようである。

成績評価は、特A(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)が合格、D・Eは不合格。

認定試験の教室には、各大学から集められた係員が3名以上いて、学生証と受験資格書を確認して不正防止にも厳しく監督している。

出題は、科目により、記述式と、多肢選択式であり、記憶力の極端に悪くなっている自分は、いい加減な記憶がやっとだから、微妙な違いを選ぶ多肢選択式は苦手で、合格してもやっとC。生命論は2年かけて4回目にしてやっとC。中世の日本文学は2回受けたがどうにもならず不合格で断念。日本古代史の如きは、2回も奈良・大和を訪ね、『A』を取ってやろうと参考書を多数読み、「大和路に古代を想う」との随筆まで書いたのに、Aどころか不合格。多肢選択式の問題だとダメである。

だが、多肢選択式の問題でない記述式だと、『A』が取れる。

ドイツの言語文化がなんと『特A』の成績。

問題のひとつの「ドイツワイマル時代の文化について」だが、これは1920年代第一次世界大戦の終わった後で1930年ころまでだ。哲学では、ハイデッガーの哲学、さっぱりわからないながら、その著「時間と空間」がある。ハイデッガーがヒトラーに間接的らしいが協力して問題になったことが新聞に出ていた。

映画はトーキー(発声映画)の時代となり「制服の少女」「会議は踊る」が日本で圧倒的人気があった。中学から大学時代である。私が医学部予科に入った年「会議は踊る」の主題歌が大流行、これをドイツ語で口ずさむのが医学部の学生のステータスシンボルみたいであった。そして、この頃から、ナチスの台頭があり、日本の軍国主義化が急速に進んだ。そういう時代に生きたからこそ『特A』である。

「フランスの言語文化」もA。

私は、ふらりと旅行した時、カナダで、残秋のケベックの街を一日中歩き回ったが、すばらしい印象だった。ケベック州はフランス語を公用語としており、長らくカナダからの独立運動もある。そういうカナダの歴史を知っていたので、詳しくカナダを論じたから『A』をくれたのであろう。私が、記憶障害があるのに『A』を取るには、みな理由がある。「哲学的人間学」も『A』。私の文明批判、科学批判、自然破壊、人間性の喪失、そういう観点から論じたのが、哲学がわからない私なのに「哲学」になっていたのであろう。

傑作は、「老人の保健」である。『A』をひとつ余計に取ってやろうとの目的で登録した。担当教授は本間日臣氏、問題は『老人の下肢の浮腫はなぜ生ずるか』であった。私は、医者で老人だ。しかも自分自身下肢のムクミが前からある。ところが結果はなんと、『C』。ヤッパリ、私はヤブ医者なのであろう。

4 学生の状況

平成4年度第1学期の在学生状況(少し女性が多い)

全科履修生	24,799名
選科履修生	8,522
科目履修生	5,757
特修生	509
研究生	67
聴講生	1,814
合計	41,468

卒業生の状況（平成1年4月第1回卒業生より4年間合計）

	男	女	計
20才代	131名	158名	289名
30才代	269	308	577
40才代	280	652	932
50才代	169	407	576
60才代以上	202	83	285
合計	1,051	1,608	2,659

60才代以上は男性が多いが、定年後「少年老い易く学成り難し」を痛感して勉強を始めたのだろう。女性は子供に手がかからなくなった40~50才代に断然多いのが目立つ。学生ホールがあって自動販売機や電話があり、学生がテキストを読んでいたたり、おしゃべりしているのだが、どうも学生ホールには入る勇気がなかったし、教室で話し合うチャンスもなかったから一人もガールフレンドのできない学生生活だった。

5 なお、私の放送大学専門課程の単位修得状況一覧を、恥ずかしながら掲げる。

『専門科目』

「人間の探究専攻科目」

*単位認定試験評価

ドイツの言語文化I	特A
ドイツの言語文化II	C
フランスの言語文化I	A
フランスの言語文化II	B
哲学的人間学	A
アメリカ論I	A
アメリカ論II	C
アフリカ論	A
近現代の東南アジア	B
文化人類学	B
近代西洋哲学史	C
日本の言語文化	C
中古日本文学	C
日本文化史	B
演劇史と演劇理論	C

*面接授業

近代西洋哲学史
哲学的人間学

現代哲学

心の哲学

構造と解釈

日本の言語文化

中世日本文学

近代文芸II

美術史と美術理論

「専攻外の科目」

人間と社会環境 B

地域社会学 C

パーソナリティー論 C

老人の保健 C

人間関係論 B

発達段階の心理学 C

教育社会学 (4) C

生命論 (4) C

*面接授業

発達段階の心理学

地域社会学

教育社会学

現代の国際政治

発達心理学

宇宙地球科学

脳と神経の科学

注 (4)は4単位 他は2単位

面接授業は1単位

『卒業論文』（6単位）『特A』

テーマは『心の実在と靈魂』

〔単位取得数について〕

卒業に必要な単位数 124

取得した単位数 134

卒業に必要な面接単位数 17

取得した面接単位数 28

以上のように十分過ぎるほど単位を取った。

聞くとところによると、老人学生で『特A』

があってAも4つあり卒論も『特A』という

のは注目されるべき？成績らしいから、二学期

の成績に関係なく卒業できると、悠々卒業式

を待った。ところが意外、3月28日の卒業式

を控え、3月11日に次のような速達がきた。

「さきに、卒業証書・学位記等の準備のため書類確認をお願いいたしましたが、平成4年度第2学期末現在の単位が卒業条件を満たしていませんので今回の卒業は認定されませんのでお知らせします。」

どう考えても理由がわからないし、納得できない。

早速大学本部へ電話した。

「社会系の基礎科目1単位が不足しています。どこかの大学学習センターで社会系の基礎科目1単位だけを面接授業で取って下さい。卒業証書と学位記の授与は9月です」と。

どう考えても社会系の基礎科目1単位不足の意味が分からない。基礎科目は全部認定されているではないか。不思議だ。不思議だ。また電話した。

「学生生活の葉の17ページを見て下さい。基本・基礎科目36単位とありますね、横の方に注意事項という欄がありますね。人文・社会・自然3分野にわたることとありますね、あなたは社会の単位が認定されていないので社会を取らなければいけなかったのです」と。原因は、私のまったく気がつかなかったところにあった。

社会系の単位がゼロ認定だったのは、おそらく医学部だったから自然科学系の基礎の単位を多く認定し社会科学系の基礎単位をゼロにしたのだろうが、基礎科目が残っているなんて思いもよらなかったし、事務の方でもウツカリしていたのか親切さが足りなかったのであろう。

こんなことは、普通の大学であつたら、絶対にない事である。放送大学だからこそである。私の息子が東大の駒場の教養課程から本郷の学部へ行った時、事務から駒場での単位が1科目不足しているから学部にいる間にそれを取るように注意されたという。

学生に対していくら親切にしても、文書連絡主義にならざるを得ない放送大学だから、老学生の私のイイ加減さ、老いたアタマが悪いのである。

面接授業1単位は、やっと、欠員のある授業の追加登録ができた。世田谷の第一学習センターの日曜日午前の『政治学入門』。お蔭でまたしばらく学生生活ができる。

いずれにしても放送大学は良き大学である。良き大学になろうと努力している。

以上、放送大学の奨めの弁とする。

当院ナースのストレス解消法

……青梅市立総合病院「いずみ会だより」より

さて、最近の女性のストレス解消法は、男性と並び「飲酒」「賭事」が多くなってきていると言われています。そこで当院のナースの場合はどうか、その傾向を調査してみました。(次頁グラフ参照)

ストレス解消法を年代別にみると、20代はカラオケ、30代は衝動買い、40～50代はやけ食いが多い、という結果になります。また、年代を問わず衝動買いをする人は多く、裕福な日本経済がうなずけます。

問題の飲酒については、思ったより少なく、やけ食いと同一位の割合でした。さすがはナースと思いませんか。

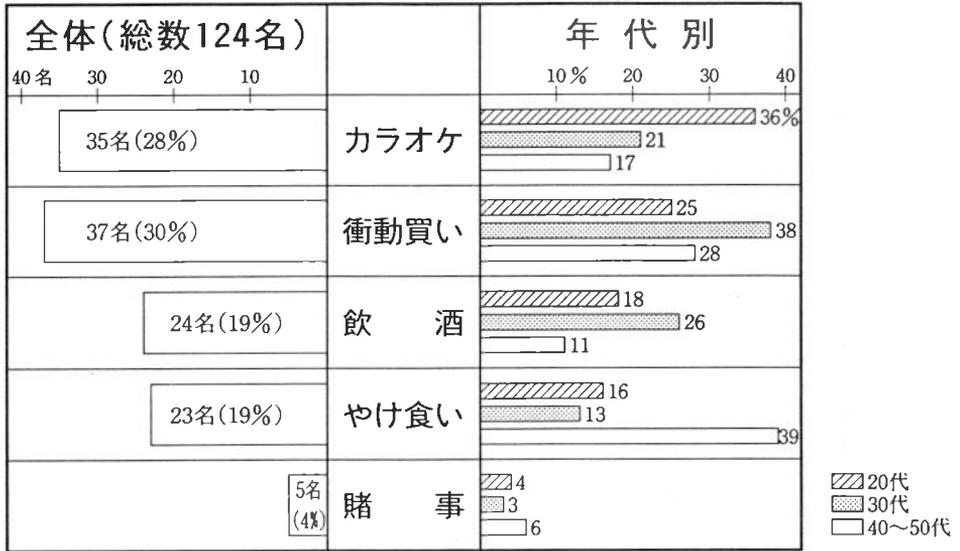
賭事は当病院のナースはあまり好きではないようです。

個々にみても、それぞれ年代の特徴がよく現れていました。中には具体的に「金銭では根本的にストレス解消はできません。」と答えた方もいて、ストレスから開放され、自分を取り戻すためには、自分らしい方法を見つける必要があることを教えられたような気がします。また、興味を持って長く続けることも、心豊かになり最大のストレス解消になるようです。

さて、「心身のリフレッシュ法」について、皆さんの方法を紹介してみました。共感す

る部分も多かったのではないのでしょうか。どんな方法でも、自分らしさを理解できれば、自然なりフレッシュ法が見つかると思います。

どういう時に自分がリラックスでき、心穏やかになれるか、自分の内面を知り、自分自身を大切にしてほしいと思います。



地区だより

羽村地区

さる3月16日、羽村市コミュニティーセンターにて、羽村地区定時総会が開かれ、真鍋勉 新地区長、村山正昭 副地区長が選出された。(広報部)

羽村市地区長就任にあたって
真鍋 勉
さる3月の羽村地区定時総会におきまして今期の羽村地区長に選任されました。羽村医師会の伝統である「和」を貴び、会務を全うすべく精励いたす所存でございますので、今後ともよろしくご指導ご鞭撻をお願い致します。

福生地区

歯科医師・薬剤師会を招き
“花見の会”開催

福生地区会主催にて平成5年4月9日、石川酒造「雑蔵」で開催された観桜三師会は、時間通りに始まった。写真は山田正哉先生の乾盃で、まさに会の幕が開かんとしている時に撮影したものである。(安富一夫)



福生地区 花見の会

お 知 ら せ

6月（5月診療分）の
保険請求書類提出日
 6月8日（木）
 —— 正午迄です。 ——

法 律 相 談

西多摩医師会顧問弁護士 鈴木禧八先生による法律相談を
 毎月第2水曜日午後2時より実施しておりますのでお気軽に
 ご相談下さい。

- ◎ 相 談 日 5月は12日（水）
 6月は9日（水）の予定です。
 - ◎ 場 所 西多摩医師会館和室
 - ◎ 内 容 医療、土地、金銭貸借、親族、相続問題等民事、
 刑事に関するどのようなものでも結構です。
 - ◎ 相 談 料 無 料（但し相談を超える場合は別途）
 - ◎ 申 込 方 法 事前に医師会事務局迄お申込み願います。
- （注）先生の都合で相談日を変更することもあります。

訃 報

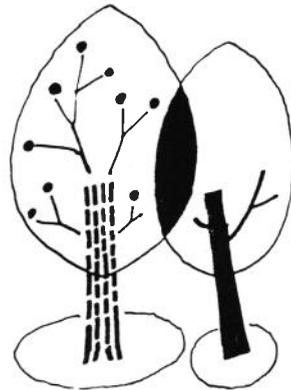
鈴 木 圭 吉 様 81才

日の出町大久野 281

落合クリニック

鈴木民子先生（ご尊父）

去る4月13日逝去されました。
 謹んでお悔やみ申し上げます。



表紙のことは

『大岳山』

私が府立二中、現立高へ通学していた頃、校庭に立てば、桑畑のつづく向うに、特長のあるこの山が見えた。大岳山と知ったのは、今の病院へ勤務してからである。標高1266米、青梅市と五日市町の堺、御岳山の西南に位置する山である。

この写真は、多摩川べりから、赤外フィルムを入れ、望遠レンズを装着して撮影したものである。この時期に、大岳山がこんなに良く撮れたことも珍しく感じた。

特長あるこの姿は、高尾山からも美しく見える。いつもこの山に見られるような気がするが、四季に変わる姿が美しく、大好きな山である。

安富一夫

あとがき

カンボジアでの国連ボランティア中田厚仁さんの死には少なからずショックを受けました。私事ですが、義妹が国際協力事業団員としての仕事を終えサモアから帰国して間もなく、またかつて仕事をともにした先輩医師が、中国のポリオ根絶事業の為に旅立つ矢先のことでした。ひとり取り残されたような気持ちに陥りながら自問するところですが、医療現場にも対価で購えない無数の献身が有ると自負して、日々成せることを成すといたところでしょうか。医師会活動に集い、諸先輩の80年の地道な歩みが作り上げてきた地域保健医療を、さらに包括的に発展させ保障し継承して行くことの一端が担えれば、一医師としての社会的責務の幾何かが果たせるのではと念じつつ、我がマインドコントロールを試みるこの頃です。

玉木一弘



社団法人 西多摩医師会

平成5年5月1日発行

会長 松原貞一 〒198 東京都青梅市西分3-103 TEL 0428(23)2171・FAX 0428(24)1615

会報編集委員会 明田川修生

天野了一 石井好明 片平潤一 小机敏昭 込田茂夫

瀬戸岡俊一郎 高水松夫 玉木一弘 道又正達 山川淳二

印刷所 マスダ印刷 TEL 0428(22)3047・FAX 0428(22)9993

自然のめぐみを最先端の技術で活かす——ツムラ漢方製剤エキス顆粒(医療用)128品目+3品目



ツムラは、ツムラ漢方製剤エキス顆粒(医療用)128品目+3品目により、高齢化社会の深まりつつある現実の治療に貢献しつつ、漢方製剤の科学的な実証を通じて、21世紀に至る長寿社会の治療手段としての役割をはたしていきたいと願っております。

 株式会社 **ツムラ**
東京都千代田区二番町12-7 千102

最新のテクノロジーが計測します
そして、人の眼と心が記録します



臨床検査のパイオニア
保健科学研究所

本 社 千240 横浜市保土ヶ谷区神戸町106 TEL/045-333-1661(大代表)

仙 台 支 社 千983 仙台市宮城野区扇町1-3-5 TEL/022-236-9345(大代表)